

資料 8 - 2

令和4年(2022年)10月5日(水)
第8回市民参加推進審議会

第7回八王子市市民参加推進審議会まとめ

【配布資料】

- 資料7-1：第6回八王子市市民参加推進審議会（第7期）会議録
- 資料7-2：第6回八王子市市民参加推進審議会まとめ
- 資料7-3：〈未来デザイン室〉市民参加実施状況報告書①②
- 資料7-4：〈まちなみ景観課〉市民参加実施状況報告書①②
- 資料7-5：令和3年度（2021年度）市民参加実施事業実態調査まとめ
- 資料7-6：市民参加実施事業並びに条例第6条該当事業に関する実施状況

【市民参加条例の運用状況の検証】

〈市側説明〉

- 「市民参加条例の運用状況の検証」に関する所管ヒアリング
 - ・未来デザイン室長期ビジョン担当
 - ・まちなみ整備部まちなみ景観課

〈審議内容〉

[未来デザイン室]

- ・高校生や大学生は、地域でのワークショップとは別のワークショップに参加したのか。
 - ⇒ 高校生対象ワークショップには、8校15名
 - 大学生対象ワークショップには、6大学21名が参加
- ・生徒、学生の主な意見は？
 - ⇒ 共通した意見は、「多世代交流をしたい」「居場所がほしい」
- ・37中学校区から653名の市民参加があったことは、今後も市民参加してもらえる裾野を広げた。
- ・多くの市民が参加できるワークショップは参加の機会が増えるので、今後もよい循環が続くとよい。
- ・ワークショップを上手く進めるためには、運営する職員がファシリテート等の技法を身に付けることが必要である。
- ・ワークショップの運営やファシリテートは誰が行ったのか。
 - ⇒ 運営やファシリテートの研修は委託業者が実施し、ワークショップでは、7～8名の参加者に対し2名の職員がファシリテーターとして参加した。
- ・地域の情報や魅力を集約した地域カルテは37中学校区の全てで作成したほうがよい。

[まちなみ景観課]

- ・八王子駅周辺地区屋外広告物地域ルールの策定に向けてワークショップを実施しているが、参加した学生から新たな視点からの提案はあったか。
⇒ ワークショップ前に実施した「まち歩き」を通し、八王子の大切な価値は何か、魅力を高めるにはどうしたらよいか、について学生ならではの提案があった。
- ・まちの魅力は、住んでいたり、商売している人だけでなく、関係性の薄い外部からの目線も必要である。しかし、学生はたまたま専門分野の研究室に在籍している等の理由でワークショップに参加し、感じたことを発言している場合もある。学園都市八王子として、学生の視点やエネルギーをもらいつつ、かつ、今後も住み続ける若い世代からの意見もバランスよく汲み取れるとよい。

[全般的な意見]

- ・ワークショップは市民と職員が共に参加でき、お互いの意見を知ることができるとともに成長することができるよい機会である。
- ・職員は、ワークショップ等の市民参加を通して、日常的に市民と会話できる関係性を築くことで、市民ニーズに気づくことができると思う。
- ・若い世代を含め、地域への関心や協力したいという意識、ワークショップへの参加経験はあるものの、それが「市民参加」であることに結び付いていないのではないだろうか。